



鶴ヶ島第一小学校
学校だより

学校教育目標

かしこく なかよく たくましく

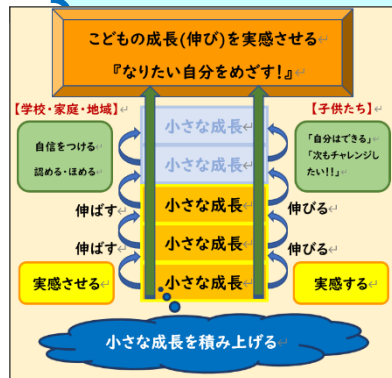


ゆずりは

10月号 NO.5

令和7年10月10日

♪ こどもの成長(伸び)を実感させ、『なりたい自分をめざす!』 ♪



「やさしい言葉と笑顔があふれ、一人一人が輝く学校」を目指しています。

1学期は、『温かい心と心をつなぐ』に力を入れました。子供たちは、人々との温かいつながりを大切にしながら、目標に向かって伸びようと一生懸命に努力していました。子供たち一人一人の伸びるスピードは違いますが、一歩ずつ確実に成長しています。

2学期は、この安心できる温かい雰囲気の中で『なりたい自分をめざす』に力を入れていきます。2学期は、たくさんの学校行事があります。自分の目標をしっかりと立てて行動し、「得意なことをもっと得意になるように頑張る!」ことや、

「苦手なことでも自分のペースで少しでもできた!」という喜びを実感させたいと思います。先生方は、子供たち一人一人の小さな成長(伸び)を実感させてあげることができるよう、認めて・ほめていきます。それを自信につなげて積み上げていき、チャレンジしている自分を好きになって「また、次もチャレンジしたい!」という熱い思いと願いを大切に『なりたい自分をめざして』いけるように力を入れていきます。

本校では、子供たちのために「温かい学校」「温かい家庭」「温かい地域」のつながりを大切にして、未来ある子供たちをしっかりと育てていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

運動会のスローガン『泣いても 笑っても やりとげよう』



9月は、30度を超える大変暑い日が続きましたが、日に日に過ごしやすくなり、子供たちも落ち着いて主体的に学習に取り組めるようになりました。子供たちは10月11日(土)に開催される「運動会」に向けて練習を全力で頑張っています。応援練習では、赤組も青組も心をつなげて一生懸命に頑張っています。ぜひ、運動会当日には、子供たちの『笑顔があふれ、一人一人が輝く姿』をご覧になっていただき、全力で頑張っている子供たちの姿に温かいご声援をよろしくお願いいたします。

『秋の全国交通安全運動』引き続き、交通事故防止を徹底します!



9月21日(日)から秋の全国交通安全運動が実施され、合言葉は【「つける」「見つける」**反射材とライトで安全確保**】です。これから夕暮れも早くなります。道路の安全な歩き方や安全な自転車の乗り方等については、引き続き、意識を高めていきたいと思っています。学校では、先日のお話朝会にて子供たちへの指導をしました。今後も、繰り返しの指導を徹底してまいります。ぜひ、ご家庭でも機会を見つけてお話をさせていただき、ご指導をお願いいたします。なお、**ヘルメットの着用につきましては、子供たちの大切な命を守るためにも全員が着用できるようによろしくお願いいたします。**



広島市平和記念式典児童派遣事業参加報告会

広島市平和記念式典児童派遣事業参加報告会が、8月23日(土)に西市民センターの集会室で行われ、6年2組の秋山 爽菜さんが、鶴ヶ島第一小学校と鶴ヶ島市の代表として立派に発表することができました。戦争の悲惨さと平和の尊さについて、広島市を見学して感じて思ったこと次のように発表してくれました。



令和7年度広島市平和記念式典児童派遣事業
参加報告会

令和7年度
広島市平和記念式典
児童派遣事業
参加報告会

スライド発表

参加報告会での発表



お話朝会(リモート)での発表

笑顔があふれる未来のために

鶴ヶ島第一小学校 6年2組 秋山 爽菜

皆さんは、平和について語り合ったことはありますか。もしくは平和の尊さについて考えたことはありますか。

私たちは、何気なく、戦争をしてはいけない、核兵器を使用してはいけないと学んでいます。しかし、もし現実、核兵器によって自分の大切なもの、人や街などが、すべて無くなってしまったらどうするのでしょうか。私ならば、死にたいと思い、人生の道を見失ってしまうでしょう。

昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分。広島に落とされた人類初の一発の原子爆弾で広島に住んでいる人の笑顔やにぎやかな街が、いっしゅんにして白黒の地獄に埋め尽くされてしまいました。広島の街に残ったのは、やけどで皮ふが垂れ下がり、ガラスが体につきささり血を流している人。大切な子供を失い、絶望の声で泣き叫ぶ親。医りようが届かず、かたい地面で横たわっている人。やけどで「水、水をくれ」と叫んでいる人。放射線による

後い症で、死の斑点が出る人などでした。

原爆は、にぎやかで、笑い声や笑顔であふれていた平和な広島を、いっしゅんでうばってしまったのです。

広島原爆資料館には、原爆が落とされたあの日の様子が展示されていました。私は、そのひとつひとつの写真から悲鳴が聞こえるように感じ、言葉を失い、信じられないと思いました。

実際に被害にあった原爆ドームは、インターネットの写真で見るより迫力があり、当時のままの壁を見ると、建物自身が、原爆の悲惨さを物語っていて、その場所だけ時間が止まっているように感じました。また、貴重な話を語ってくれた被爆者の方は「三度許すまじ、核兵器を世界の街に使わせてはいけない」と力強くおっしゃいました。私は、その言葉に胸を打たれ、頭からはれません。日本だけでなく、世界のどこであっても核兵器によって平和をこわすようなことはしてはいけない、という思いが込められているように感じました。私は、平和とは、差別がなく、核兵器も使われないことだと思います。そして、人々が安心して暮らし、当たり前の日常を送れることだと改めて思いました。核兵器があるから、戦争を抑止して、平和に暮らせるという考え方があると聞いたことがあります。私は、そうではなく、核兵器がないから、平和がこわされず笑顔が絶えなくなるのだと思います。そのためには、どうすればよいのでしょうか。

皆、友達という時は、明るく接し、お互いに良い関係を築こうとします。国同士も、このような関係を築くことはできないのでしょうか。世界の各国が、今やらなければならないことは、争いがおこらないようにお互いの国を尊重し、認め合おうと努力することだと思います。そうすれば、平和の輪がつながり、核兵器もなくなり、幸せを感じることができる世界がつかれると思います。

子供代表の平和宣言に「ワンボイス、たとえ一つの声でも、学んだ事実を思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができる。」という言葉がありました。私は、その言葉を聞き、被爆者の話や資料館見学などを通して学んだ平和の大切さを、たくさんの人に伝えたいと思いました。

かつて、広島で起きた事実を、そこから学んだ自分の想いを、しっかりと伝えれば、一人でも平和への一歩を歩めると思います。そして、多くの人々が、平和を築く一歩を歩み出す世の中になってほしいと心から思います。